

社頭の志る屋

仁河神社に縁あり



明治天皇御製

わが國は神のすゑなり神まつる

むかしの手ぶりわするなよゆめ

仁川神社概要

朝鮮京畿道仁川府宮町鎮座

一、御社號 舊仁川大神宮ト稱セシモ大正五年四月仁川神社ト御改稱

二、御社格 天照大神 二座

三、御祭神 天照大神 二座

四、御鎮座 明治二十三年十月十日

五、御由緒略

明治十六年仁川開港後在留邦人一千六百餘名ニ達スルヤ、内忠君愛國ノ至誠ヲ涵養シ、外帝國ノ國威ヲ海外ニ發揚セン事ヲ期シ、特ニ皇祖ノ神靈ヲ拜戴セントスル在留帝國民ノ熱誠ナル惇願ニヨリ明治二十三年時ノ領事林權助ヨリ外務省內務省ヲ經テ三重縣知事ト往復交渉ノ結果、時ノ神宮祭主久通宮殿下ニハ海外在留民ガ敬神愛國ノ至誠ヲ御感賞アラセラレ、茲ニ伊勢神宮ヨリ天照大神ノ御靈代ヲ拜戴、海路仁川港ニ御上陸、一時領事館ニ奉安ノ上明治二十三年十月十日鎮座シ奉リ仁川大神宮ト稱ス、之レ京畿鎮護帝國神祇第一發祥ナリ其ノ後大正四年社殿ノ改築ト共

ニ社號ヲ仁川神社ト改メ大正十一年十月、明治天皇ノ御聖德ヲ景仰シ、其ノ御偉業ヲ永遠ニ敬慕奉拜スルノ意ヲ以テ明治天皇ヲ合祀シテ御祭神ヲ二座ニ改ム、更ニ昭和六年九月伊勢皇大神宮ヨリ五種ノ神寶御下賜アリ、昭和八年十月開港五十周年記念ヲ以テ境内地ノ整理完成ト共ニ今日ニ至ル

六、神輿渡御式神事

明治四十一年氏子有志相談リ五千餘圓ヲ以テ神輿並ニ御調度品一切ヲ購入シ以テ盛大ナル渡御式神事ヲ始ム之レ我カ國海外ニ於ケル神輿渡御式ノ嚆矢ニシテ其ノ後逐年補足整備ヲ加ヘ、昭和八年十月、開港五十周年記念賽會ニヨリ、經費四千圓ヲ以テ御鳳轡御車ヲ調製シ其ノ他附屬御調度ノ完備ト共ニ今尙仁川祭ヲ表榜スルモノトス

七、社殿及境内地

現在ノ社殿ハ大正四年工費約壹萬五千圓ヲ以テ改築シタルモノニシテ神殿ハ伊勢外宮棟梁式家中川清右衛門ノ作ナリ昭和三年更ニ御大典記念ヲ以テ有志ノ献納ニヨリ齋館參籠所東西ノ對屋ヲ増築シ更ニ昭和六年御神殿ノ修理中門及瑞垣、並ニ東西兩寶殿ノ建設ト共ニ社殿ノ結構ヲ整ヘタリ。境内地ノ坪數ハ四千七百四十四坪他境外所有地九百四拾八坪統テ神社所有地トス

八、境内社

稻荷神社

明治二十七年御鎮座、大正十一年社殿改築

金刀比羅宮

明治三十年御鎮座、大正十四年社殿改築

天満宮

明治三十年御鎮座、大正十五年社殿改築

九、境外社

愛宕神社(月尾島愛宕山)

明治四十一年御鎮座、昭和四年九月社殿御改築

仁川神社正面



# 社頭ヨリ展望スル仁川史蹟

## ○江華島事件ト仁川

明治八年九月我が軍艦雲揚號清國牛莊ニ赴クノ途次、偶々淡水ノ缺乏シタルヲ以テ漢江口ニ碇泊シ、水ヲ江華島ニ求メントモシニ、同島砲臺ハ突然我レヲ砲撃セリ。我が艦之レニ應戦シテ忽チ砲臺ヲ陥レ、歸ツテ之ヲ帝國政府ニ報告ス。翌年二月我が政府ハ陸軍中將兼參謀黑田清隆ヲ辦理大臣トナシ、江華島ニ派遣シテ詰問謝罪セシメ豫テノ懸案タル日韓修好條約ヲ締結シ獨立國タルコトヲ世界ニ表明シ、更ニ釜山ノ外二港ヲ開クベキヲ承認セシム。此ノ條約ノ結果元山仁川ノ二港ハ開港地ト決定セリ。

## ○明治十五年事變ト仁川

王妃閔氏一派ノ專横ニ對スル大院君ノ不平ハ、偶々糧食給與ノ途無キ軍隊ノ不平ト相結ビテ内亂ヲ醸シ、明治十五年七月二十三日、一隊ノ暴兵ハ宮闕ニ侵入シ他ノ一隊ハ我が公使館ヲ襲撃セリ。時ノ我が駐在公使花房義實氏ハ館員ト共ニ圍ヲ破ツテ王闕ニ向ヒシモ、關門緊ク鎖シテ入ルヲ得ス。遂ニ歩ヲ轉シテ仁川ニ向フ。揚花鎮ニテ舟ヲ得、漢江ヲ渡リ翌二十四日ノ暮舊(仁川府)ニ着ス。府吏鄭志鎔善ク歡迎シ一行漸ク安ラカナルヲ得タレドモ夜半再び暴兵ニ襲ハレ、衆寡敵ズ辛シテ濟物浦(現仁川)ニ向ヒ月尾島ニ渡ル。總員僅ニ二十五名、對岸ヲ見レバ現稅關附近ニ暴民喧噪シ舟ヲ襲シテ進撃セン勢ナリ。二十六日ノ午後我が一行ハ漸クニシテ灣ノ一角ニ航行スル英國ノ測量船(フランク、フイシユ號)ニ救助セラレ、長崎ニ上陸ス。公使ハ直チニ事變ノ顛末ヲ帝國政府ニ打電シテ命ヲ馬關ニ待ツ。時ノ外務卿井上馨氏同地ニ出張命ヲ花房公使ニ傳フ。茲ニ我が陸海軍ノ出動ヲ見ルニ至リ、海軍ハ仁禮海軍少將ヲ司令官トシテ金剛以下四艦ヲ特派シ、陸軍ハ高島少將ヲ司令官トシ、花房公使ト共ニ海陸一千余ノ兵ハ八月十二日仁川港ニ上陸ス。全十六日公使ノ一行ハ京城ニ入り、茲ニ韓國政府ト修交條約ヲ締結セリ。濟物浦條約即チ之レナリ。公使ハ此ノ事變ニ際シ戰死セル堀本中尉以下七名ノ屍ヲ仁川ニ移シ壯嚴ナル改葬式ヲ行フ。(現陸軍墓地ノ最高点ニ其ノ石碑アリ)

## ○明治十七年事變ト仁川

明治十七年十二月四日朝鮮郵政局ノ祝宴ニ乘ジ、金玉均等ノ改進黨ハ事大黨ノ臨場大臣ヲ斃殺セントシテ成ラズ、其ノ余波清兵並ニ暴徒ハ再び我が公使館ヲ襲撃シテ火ヲ放テリ。茲ニ衆寡適ズ我が竹添公使以下六十余名ハ漢江ヲ下リテ仁川ニ着シ本國政府ニ電告ス。我が政府ハ井上全權公使ヲ特派シテ漢城條約ヲ締結セリ。

## ○日清戰役ト仁川

明治二十七年四月東學黨ノ亂全羅道ニ起ルヤ、遠近風ヲ望ンテ相應ジ、官兵ノ敗開切ナリ。韓廷狼狽ノ極援ヲ清國ニ求ム。清ハ機熟セリ、乘ズベシト大兵ヲ送り天津條約ニ依リテ我ニ知照ス。歸國中ノ大島駐韓公使ハ軍艦八重山ニ塔シテ六月九日仁川ニ入港、四百ノ陸軍隊ニ護衛セラレテ入京ス。次キテ大島少將ノ混成旅團、立見少將ノ第十旅團、山縣大將桂中將等ノ率キル運送船二十八隻交々入港上陸ス。時ニ仁川居留民ハ飲

## 社ヨリ下瞰スル仁川築港

仁川港ハ元來港内廣ク水深ク冬季結氷セズ。即チ天然ノ良港ナリト雖モ、潮位千滿ノ差ハ東洋無比ニシテ實ニ三十三尺ニ至ルヲ以テ大船ハ陸海岸ニ近ヅク事ヲ得ズ。遠ク三海里ノ沖ニ於テ荷役セザルベカラザル不便アリシヲ以テ、明治十四年將來ノ出入貨物六十萬噸ヲ目標トシテ起工シ、總工費五百六十六萬餘圓ヲ投シ大正七年十月ニ至リテ開門式船渠ノ完成ヲ見ルニ至レリ然ルニ歐洲大戰ノ影響ハ東洋方面ニ殖産興業ヲ刺激シ、朝鮮ノ發展モ豫想ノ上ニ出テ貿易ノ増進トナリ、翌大正八年ニハ所期ノ數量ヲ突破シテ六十三萬餘噸ヲ算シ、大正十一年ニハ財界不況ノ際ニモ拘ラズ尙且ツ七十三萬六千六百六十五噸、貿易額壹億百九十餘圓ニ達シ、更ニ大正十四年ニハ出入貨物八十五萬一千餘噸、貿易額壹億參千貳萬圓ノ(レコード)ヲ示セリ、從ツテ港内船舶ノ收容量モ頗ル狹隘ヲ告グルニ至リ貨物荷役上ニモ支障ヲ來セルヲ以テ仁川市民ハ築港擴張ノ必要ヲ決議シ、大正十二年一月二十五日朝鮮總督ニ宛テ之レガ請願書ヲ提出セリ。次イテ大正十四年四月仁川ニ於テ帝國港灣協會第二回總會開催セラ

用水ノ供給病兵ノ慰問等輕食ヲ忘レテ盡醉シ、我が軍北進スルヲ自ラ奮ツテ或ハ通譯トナリ或ハ人夫トナリ、男子ハ殆ド從軍ノ姿ヲ呈セリト云フ。

## ○日露戰役ト仁川

### 一 海戰前

明治三十六年……七年日露ノ交渉險惡トナルヤ、露國ハ一等巡洋艦(ワリヤーク六千五百噸)(コレツク千二百噸)ノ二隻ヲ派シ仁川港ニ碇泊セシム。我が帝國ハ二等巡洋艦千代田(二千四百三十九噸)ノ一隻ノミ。仁川埠頭ヲ距ル二哩ノ地点ニ於テ(コレツク)トコ相近キ警備ノ任ヲ執レリ。當時ノ居留民間ニハ蜚語紛々、或ハ曰ク旅順ノ露艦隊ハ陸兵ヲ塔載シタル運送船ヲ護送シテ仁川又ハ鎮南浦ニ上陸スベシト。或ハ曰ク韓國政府ハ親露派勢力ヲ占メ、日本人驅逐ノ爲メ旅順ニ援兵ヲ乞ハン等流言盛ナル上ニ、港内ノ露艦ハ優勢我レヲ凌ギ、我一度錨地ヲ變フレバ彼亦直チニ移動シ、何物モ我ヲ監視スルノ態度ヲ示セリ。斯クテ明治三十七年二月五日國交斷絶ノ報駐韓公使ノ手ヲ經テ千代田ニ達シ、又連ニ一地点ニ集レノ無線電信ニ接スルヤ、千代田ハ七日ノ夜陰ヲ利用シ、舷燈ヲ滅シテ巧ニ港外ニ出航セリ。

### (二) 我艦來ル……敵前上陸

明クル八日、我が居留民ハ千代田ノ出港ニツキ危懼ノ念禁ジ得ザリシ午後三時一條ノ黑煙ハ尾尾島沖ニ現ル。一條又一條喜憂交々至ル。中ニ忽チ我が艦隊ノ運送船ヲ護衛シ來レルヲ知レリ。千代田即チ先導、高千穂、淺間、浪速(旗艦)新高、明石、ハ單縱陣ヲ作り、右側後方ニ運送船三隻ヲ左側ニ水雷艇五隻ヲ率ヒ威風堂々海上ヲ壓シテ現レタリ。

斯クテ高千穂、千代田ハ運送船ヲ擁護シテ午後五時埠頭近ク敵艦(ワリヤーク)ヲ距ル一哩ノ地点ニ投錨シ他艦ハ八尾島沖ニ在リテ敵艦ノ逸出ヲ監視セリ。今日午後五時半ヨリ陸兵ノ上陸ヲ開始スレバ居住民ハ海岸一圓ニ炬火ヲ焚キ兵員ノ上陸ニ便ナラシメ、一箇旅團ノ兵士襁褓蕭々トシテ其ノ上陸ヲ完了セシハ午前一時ナリキ。此ノ記念スベキ日ハ仁川住民ノ永久ニ忘ルベカラザル所ニシテ、毎年二月八日ハ仁川神社境内並ニ海岸埠頭ニ炬火ヲ焚キ昔日ヲ懷想シ、翌九日ハ戰捷記念日ヲ祝シテ仁川記念日(仁川デー)トナシ、仁川府ノ主催ヲ以テ仁川記念日祭ヲ仁川神社前ニ於テ執行スルト共ニ官民一同賀宴アルヲ常トス。又帝國海軍ヲ代表シテ軍艦ノ入港、式日ニ參列スルアルモ昔日ト變ル事ナシ。

### (三) 海戰

明ル二月九日午前七時、我が瓜生第四戰隊司令官ハ先ヅ敵艦(ワリヤーク)艦長ニ「本日正午迄港外ニ出ヅベシ、然ラズンバ港内ニ於テ砲火ヲ交フベシ」ト通告シ、同時ニ列國各艦長ニ錨地變更ノ希望ヲ通ゼリ。午前十一時五十分(ワリヤーク)(コレツク)ハ遂ニ意ヲ決シテ出港ス、待チ構ヘタル我が艦淺間ハ敵艦ニ相距ル八千分ノ距離ニ於テ先ツ八時砲ノ火蓋ヲ切レリ。時正ニ零時四十分、コレヨリ砲聲股々(ワリヤーク)ハ遂ニ火災ヲ起シテ八尾島ノ島影ニ潛ミ、更ニ運レテ列國軍艦ノ間ニ迫ル。午後四時二十分、(コレツク)自ラ爆沈シ、次テ(ワリヤーク)モ火ヲ放チテ爆沈シ、敵艦敗滅ス。居留民之レヲ遠望シテ萬歲萬歲……又萬歲、我ニ一ツノ損傷ナク敵ハ(ワリヤーク)艦長以下死傷者八十五名ヲ算セリ。

ルルヤ、大体的ニ築港ノ擴張ヲ計畫シ大ニ輿論ノ喚起ニ努メ、近ク擴張ノ時運ニ達セリ。

### 一 開船渠ノ概略

開門ニハ二重門扉ヲ設備シ潮位ノ千滿ニ不拘船渠ニ常ニ二十

尺五寸以上ノ水位ヲ保タシメ四六時中間斷ナキ荷役ノ便ニ供

且ツ船舶ノ出入ニ際シ、船渠内貯水ノ流出スル事ナキ裝置ナリ

開門 門全長五百四十四尺 副 員 六十尺

開船渠 四百二十六尺五寸 側壁 高 四十八尺

門扉 開門扉ハ二箇所ニシテ鐵製雙扉トナシ、内部開門扉葉ノ重量一〇七英噸、外部開門扉一葉ノ重量一三〇英噸ニシテ其ノ構造及開閉裝置ハ米國(パナマ運河)ノ其レト同一ナリ。

(二) 船渠 開門扉ハ二箇所ニシテ鐵製雙扉トナシ、内部開門扉葉ノ重量一〇七英噸、外部開門扉一葉ノ重量一三〇英噸ニシテ其ノ構造及開閉裝置ハ米國(パナマ運河)ノ其レト同一ナリ。

(三) 船渠 開門扉ハ二箇所ニシテ鐵製雙扉トナシ、内部開門扉葉ノ重量一〇七英噸、外部開門扉一葉ノ重量一三〇英噸ニシテ其ノ構造及開閉裝置ハ米國(パナマ運河)ノ其レト同一ナリ。

長 サ 二百五十間 水深最低 二十七尺五寸

幅 二百二十間 水深最高 三十五尺

水面積 三萬坪

銘酒

朝野仁月軒

株式會社増田屋吟醸



鮮鶴



神死保護  
壽現圖



